

令和7年度の取組み

令和7年度は、「カリキュラム運営」に関しては、助産師学科・看護学科ともに新カリキュラムがスタートして4年目であり、継続して旧カリキュラムで入学した学生には、新カリキュラムの科目を履修する場合の読み替えや、読み替えができなかった科目の補習講義・補習実習を滞りなく実施しました。

「入学生確保」では、看護学科入学生が、前年度（令和7年度）79名と前々年度（令和6年度）の102名から約2割（23名）減となったことから、令和8年度に向けては、更なる入学生の確保を目指して、進路指導担当教員等向け学校説明会の実施回数の増（2回→3回）、指定校等訪問（13校→20校）、オープンキャンパスを実施しましたが、18歳人口の減少や看護師志望者の減少に加え、大学進学志向の傾向が強いことなどが影響し、結果として令和8年度入学者は74名にとどまりました。

一方、助産師学科の実習施設の確保は、令和7年度も実習施設と調整を重ねたにもかかわらず、お産（通常分娩）の数の減少などにより、令和8年度に向けた実習受入人数が減（12施設26名分→12施設25名分（うち新入生分は24名分））となり、結果として入学生の2名減につながりました。

自己点検・自己評価

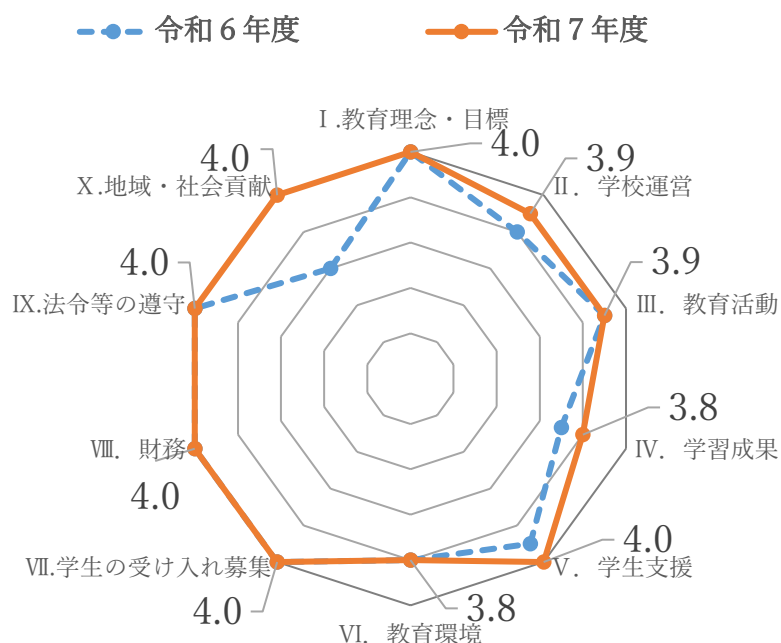
社会の変化に伴い医療・看護に対するニーズが多様化する中で、地域医療や福祉の現場に質の高い看護を提供できる助産師・看護師を育成することは、本校の責務であると考えます。

こうした中、本校では、教育の質の向上を目的に、専修学校における学校評価ガイドラインに基づき、Ⅰ.教育理念・目標、Ⅱ.学校運営、Ⅲ.教育活動、Ⅳ.学修成果、Ⅴ.学生支援、Ⅵ.教育環境、Ⅶ.学生の受入れ募集、Ⅷ.財務、Ⅸ.法令等の遵守、Ⅹ.地域・社会貢献という10の大項目と59の小項目について評価を行っています。

評価尺度は、適切（4点）・やや適切（3点）・やや不適切（2点）・不適切（1点）の4段階評価となります。

令和7年度 神奈川県立衛生看護専門学校

自己点検・自己評価



結果

全体の平均は3.9（前年度3.8）でした。昨年度と比べ、「II. 学校運営」、「IV. 学習成果」、「V. 学生支援」、は、評価が伸びています。「II. 学校運営」は、本館、新館及び別館のうち新館にWi-Fi環境を整備し本館及び別館も令和8年度中の利用開始に向けた準備が進んだこと、「IV. 学習成果」は、助産師学科の県内就職率が改善（99.7%→100%）し、助産師学科のボランティア参加者が主催者より高評価を得たこと、「V. 学生支援」は、助産師学科では御家族に向けての支援の依頼、看護学科では個性を加味して継続的、連続的支援を行ったことが主な要因と考えられます。また、両科とも進路・就職支援、国家試験対策、経済的支援の説明、卒業後の相談を密に行っていることや、多くの高校生に受験してもらえよう、高校訪問を行っていることが主な要因と考えられます。

また、「X. 地域・社会貢献」は大きく改善（3.6→4.0）しています。これは、毎年実施している通学路清掃活動（クリーンアップ）のほか、文化祭において、例年、近隣の町内会に文化祭の案内を配付・掲示し地域住民の参加を図っていますが、特に令和7年度は、文化祭の健康チェックコーナーの優先チケットを地域住民向けに配付し、地域と密接につながりをもつ工夫をしたことが主な要因と考えられます。

令和7年度の評価結果を踏まえた今後の対応ですが、学生の質と量のバランスをとりつつ、入学生の確保に向けてしっかりと取り組むとともに、令和8年度中のWi-Fi環境の整備に伴い授業等で工夫して有効活用を図るなど、引き続き、学生の個性に配慮し、学生の多様性に合わせた支援や適切な学校運営ができるよう努めてまいります。

なお、学校教育法の改正により、令和8年4月1日に助産師学科が同法に基づく適格専攻科に指定され、助産師学科の課程を修了すると「高度専門士」、「大学院入学資格」が得られることとなりました。これにより、看護学科3年＋助産師学科1年の最短4年で「看護師免許」「助産師免許」「高度専門士」「大学院入学資格」が得られることとなりましたので、本校の特徴としてホームページやオープンキャンパス等の場で丁寧にアピールしていきます。